



「単元」と「題材」ってどう違うの？ ①

「単元」と「題材」ってどう違うのですかという質問を受けました。特別支援教育では、指導者が「題材」とするか「単元」とするかで学習内容や計画が変わってきますので、この使い分けというのは大きな意味を持ちます。

【単元】学習内容の有機的なまとまりを示すものであり、学習に順序性があり、計画から実際の学習の展開、まとめを一連の活動として設定しているもの。

【題材】教科における系統性等を背景にもった学習活動の材料を示すもので、教材の一部であり、学習活動の最低限のまとまりとして設定しているもの。

この定義だけではなかなかイメージができていくかもしれませんね。次号で少し事例を挙げながらこの使い分けを整理してみたいと思います。

「授業づくりの7つの視点について②」

前回に引き続き、今回は、この中の④から⑦について解説します。

- | | | | |
|-----------|-------------------|-------------|------------|
| ①実態把握 | ②何が課題か（何を教えたいか） | ③教材探し | ④ねらい（を明確に） |
| ⑤ 展開を工夫する | ⑥子どもの主体性や協調性を引き出す | ⑦まとめ（を工夫する） | |

④ ねらいを明確に

通常の小・中・高等学校等との大きな違いとして、実態や目標、指導方法、評価等において「個」に視点を当てるところがあります。単元や題材を通して集団全体として身に付けさせたいことが「単元目標」として挙げられ、且つ、集団を構成する一人一人に対しても、個別の指導計画との繋がりのもと、個人目標を立てて学習を進めていきます。

⑤ 展開を工夫する

指導目標を達成するために、学習活動と時間をどのように配分していくのか、授業の山場はどこにあるのか、導入の発問はどうあるべきか等、演出家的な視点で授業を捉えてみることも大切です。子どもがワクワクしたり知的好奇心をくすぐられたりして「やってみたい」と思えるような授業展開を目指したいですね。

⑥ 子どもの主体性や協調性を引き出す

なぜ、主体性や協調性が重要なのかと考えると、そこにはその子なりの思考や判断が伴うからです。たとえ結果、失敗することがあっても、自ら進んで何かをしようとする、人と協力して何かをしようとする、子ども達にとってとても大切な力となります。子ども達が主体的・協調的に取り組むためには、もちろん環境設定や支援の工夫が必要になります。

⑦ まとめを工夫する

「あ～、やって良かった」「できなかったことができるようになった」...そんな喜びや成長を子ども達が感じることができるよう締めくくりをしたいものです。また、まとめの工夫がなされている授業では、子ども達が「明日もまたやりたい!」と次時への期待感を表す様子が見えます。